

バス営業所・運行管理者

1. 運行管理者とは

運行管理者とは、バス事業者において運転手さんの体調チェックや安全運転を徹底するためのサポート、事故発生時の対応など、運転手さんとその安全のサポートをする仕事です。

運行管理者の勤務時間は、16時～翌日10時といった長いものもあります。

2. 運転手さんの出勤

運転手さんは出勤して、最初に運行管理室という部屋で点呼をします。この点呼で運転手さんはアルコールチェックをします。アルコール検査機に息を5秒ほど吹きかけると、異常が無ければ、0.00mgと書かれた紙が出てきます。その紙に運転手の判子を押し、運行管理者に渡します。

このアルコールチェックの紙は出勤順に整理され、保管されます。

運行管理者は月間の目標と本日の目標を喚呼します。本日の目標は前日にあったインシデントがもとになっていることが多く、運転手に注意を促します。続けて時計合わせを行います。



3. バスの運行管理

国際十王のバスの一部には、車両の現在位置と速度を会社にリアルタイムに送信する装置がついています。運行管理者はその装置を見ることで、バスが現在どの場所を走っているかを知ることができます。

そして、高速バス羽田空港便は高速道路を経由し長距離を走ります。そのため、事故や渋滞に巻き込まれる可能性が高いです。羽田空港行き的高速バスも路線バス的一种なため、予め、走るルートが決められています。例えば渋滞が発生していても、迂回することはできません。

しかし、事故などによる通行止の場合は運転手さんと連絡を取り合い、運行管理者が迂回の指示を出します。

4. 事務所の業務

国際十王交通の事務所では、運行管理者以外にも部署があり、ダイヤを決めたり、運賃の会計などをする部署などがあります。

運行管理者と運転手さん以外は、業務時間は9時からです。9時になったら朝礼をして、その日の連絡事項等を共有します。事務所では定期券を買いに来たお客様の対応、忘れ物の問い合わせ等の対応をします。

●軽油と走行距離の話

- ・国際十王交通熊谷営業所では、1日に約3000ℓの軽油を消費します。
- ・国際十王交通熊谷営業所の路線バスの1日の走行距離は、短い行路では、犬塚や東松山を周る「半日ダイヤ」と呼ばれる行路が1日に100kmほど、長い行路では、ほたる号の1日300kmほど走行するものがあります。

